



形が残る仕事は達成感が生まれやすい。仕上がったものが目の前にあるので、次もがんばろうという気持ちになる。その繰り返しの連続だと(株)SNCの松下公裕さんは語る。現場監督として作業の安全面や工程の配り配りは大事だが、それ以外にも人材育成、新しい技術の学びも期待されている。今後の仕事に対する考え方や思いなどを伺った。

●この職業を選んだきっかけ

高校にSNCの求人があり、橋の知識はありませんでした。「何とかなる」の軽い気持ちで応募したのを覚えています。いざ入社してみると、橋の仕事は工種が多く覚えるのが大変でした。入社して研修後は大阪へ長期出張。ホームシックも重なり、後ろ向きな感情が心を占めていたのを記憶しています。

そんなとき日曜夕方の時間に「地図に残る仕事」のCMを見て、自分の仕事は何十年も残る...そう思ったら、仕事の意義や、誇らしさで「がんばってみよう」の気持ちに切り替わりました。高校卒業して間がない10代だったので、考え方もシンプルだったのでしよう。

●職場の魅力や責務

安心安全な構造物を届けるには、仲間意識と目的意識の2つが重要になります。たとえば、話し合いのとき仲間を意識しすぎて、本音が言えないなどは本末転倒でしょう。違う意見があってもいい、それを言える場作りが大事です。

熟練工は培ったノウハウを教えてください、若い世代もそれに対して質問をする。活気のある現場は、チームの共有する使命や仕事の責務が育ちます。

●仕事のこだわり、ポリシー

自分の目というか、感覚を大事にしています。現場監督は段取り能力など、必要なものはいくつもあります。けれど、すべてを自分の目で確認する、それが長年こだわっているところです。

まだ経験の少ない20代前半に、信頼している職人さんに「松ちゃん、最後は自分の目ですべて確かめないとダメだよ。それが現場監督の仕事だからね」と、教えてもらいました。この「当たり前」を日常に入れないといい構造物はできません。

担い手シリーズ 11

後悔しないよう 違和感を感じたら すぐに修正する

松下 公裕 入社25年目(工事部 課長)
株式会社 SNC



松下公裕(まつしたこうすけ)
福岡県出身。福岡工業高等学校入学・卒業。平成6年4月(株)SNC入社。
会社情報
811-2202 糟屋郡志免町志免 90
TEL:092-935-1382/FAX:092-935-1823
<http://www.snc-inc.co.jp/>

どこかで「数ミリくらい...」の気持ちが生まれると、甘えにつながります。数ミリの違和感を見つけたら原因を探す。後から修正したいと思っても、時間も労力もかかるからです。偏った考えや見方にならないよう、自分で確かめるだけでなく、周囲にも確認を求めます。

●仕事上で印象的なエピソード

1995年(平成7)に大阪で体験した、阪神淡路大震災が忘れられません。地震後に外に出ると、電柱が折れて目の前に倒れている。

たまたま上司は福岡に帰っており、自分がどうすればいいのかわからず、ともかく状況を確認しようとして現場に向かいました。直下型地震で仮置き、橋桁が20cmくらい移動して、「こんな大きな構造物が...」と驚いたのを覚えています。

●今後の目標

工事評定点で80点以上をもらったときチームの努力が実ったと感じました。品質の高いものが発注者側に納品できると、受注の機会も増えてきます。また、数字から足りない部分も見えてくるので、採点は参考になります。

今後、技術力が高められる環境を作り、現場を主導していきたいと考えます。後輩にも、積極的に経験させ学ばせることが、人材育成になると考えています。